

令和 8 年度 県立下館第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	<p>【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を目指し、生徒と教師がともに学び合う学校</p> <p>【育てたい生徒像】 様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>学習指導では、授業時間にゆとりをもたせ、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を目指し、授業改善に努めた。ICT機器の活用については、一人一人の教師や生徒の意識が向上し、ICT支援員と連携しながら日々の授業の中でのICT機器の活用が定着した。課題は、学年が上がるにつれ、上位層と下位層の学力差が大きくなっていることである。下位層の基礎学力の底上げを図ると共に、上位層のさらなるレベルアップを図りたい。そのために主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を引き続き進め、習熟度別の少人数、TTの授業の充実など、学習の個別最適化と学習の個性化を推進する。また、各種テスト結果の分析を効果的に進め、授業改善に生かしていく。さらに、中学校教員と高校教員がTTを行うなど中高連携の更なる強化と一人一台端末のより効果的な活用が課題である。</p> <p>生徒指導においては、複数担任制での学年運営を通し、生徒一人一人に寄り添った関わりを目指した。ほとんどの生徒が、学習に対して前向きに</p>	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p>	<p>①生徒による授業評価での授業満足度【4段階評価】平均 3.2 以上を目標に、生徒の学びを引き出す授業力の評価（Teaching）と生徒の学びを支援し伴走する力の評価（Coaching）により、教員個々の授業改善を推進する。</p> <p>②問題解決的な学習や協働的学習スタイルを積極的に取り入れ、附属中学校7校連携事業や総合的な学習の時間に身に付けた手法を生かした授業を展開する。また、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う学習を充実させるとともに、学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動を充実させる。</p> <p>③ICT を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。</p> <p>④習熟度別の少人数学習やTTでの指導の充実を図る。</p>	
	<p>正しく判断し、思いやりのある生徒の育成</p>	<p>⑤複数担任制を生かし、教育相談体制を工夫することで、より正確な生徒理解に努め、個に応じた指導を効果的に行う。</p> <p>⑥全員で協力して実践する活動や互いのよさを認め合う場面を意図的・計画的に設ける。</p> <p>⑦学校内はもちろん、校外においても元気な挨拶を励行する。</p> <p>⑧道徳科の授業を充実させ、道徳的価値の理解と実践力を育成する。</p> <p>⑨職員の人権意識を高めていくとともに、生徒指導における共通理解を図り指導を行う。</p>	

別紙様式 2 (中)

<p>努力し、基本的な生活習慣を身に付け、生活できている。一方で、単学級ゆえの人間関係の面でのつまずきや学習面でのつまずきに対して悩み、学校を休みがちな生徒がいる。そのため、複数担任制をよりよく生かし、管理職や学年スタッフ、関係機関との連携を図りながら、附属中教職員がチームとして積極的な生徒支援を展開していきたい。また、家庭との連携も大切にしながら、生徒に寄り添った生徒支援に努めたい。</p>	<p>特別活動の充実</p>	<p>⑩附属中独自の生徒会組織体制を整備することで生徒会活動の活性化を図る。 ⑪学級活動における話し合い活動の充実を図る。 ⑫近隣の中学校や小学校と連携した取組を計画、実践するとともに、学校行事の改善と充実を図ることを通して、一人一人の自己肯定感や自己有用感を育み、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。 ⑬キャリア・パスポートを積極的に活用し、積み重ね、振り返りを充実させ、キャリア教育を推進する。</p>	
<p>特別活動においては、附属中独自の生徒会組織体制を整備したことで、学校全体として自発的、自治的な活動が活発になってきている。また、中学校独自の委員会活動も定着してきた。生徒会組織体制を見直し、学級活動における話し合い活動を更に充実させ、自治的能力の育成を図っていききたい。また、自己有用感や自己肯定感を高めるために、キャリア・パスポートの効果的な活用を図っていききたい。</p> <p>広報活動・地域連携においては、学校説明会やHP、学校パンフレット、新聞やケーブルテレビ等で積極的に情報を発信し、「社会に開かれた学校づくり」に努めてきた。年度末には生徒発案の新マスコットキャラクターが2体増えた。今後も、生徒発案のマスコットキャラクターを生かした積極的な情報発信を工夫し、「社会に開かれた学校づくり」を進めたい。そして、地域と連携した課題解決型探究活動を推進することで、地域に信頼される学校づくりに努めていききたい。また、高校と有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組んでいきたい。</p>	<p>広報活動の推進と地域との連携</p>	<p>⑭生徒主体の学校説明会や附中生による小学校訪問を企画、実施する。 ⑮生徒発案のマスコットキャラクターを生かしながら、HPの充実や、学校パンフレット等を刷新に取り組む。また、報道機関への情報提供など積極的な情報発信に努める。 ⑯筑西市や地元企業との連携し探究活動の質を向上させる。また、学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し教育活動の質の向上を図る。 ⑰小学校・学習塾等への訪問と連携を効果的に実施する。 ⑱高校と有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。 ⑲創立103年目を迎えた伝統校として、地域と連携した課題解決型探究活動を推進し、地域に信頼される学校づくりに努める。</p>	
<p>働き方改革では、校務DXによる業務の効率化を図ることができた。会議等のペーパーレス化</p>	<p>働き方改革の実現</p>	<p>⑳各校務部及び学年等で協議したり、個別に職員の意見を聞いたりして仕事内容等の精選・合理化を進める。また、役割分担を細分化、明確化することで業務の効率化を図る。 ㉑ICT機器を効果的に活用した情報伝達・共有を更に推進していく。 ㉒働き方改革に対する教員の意識を向上させる。</p>	

別紙様式 2 (中)

<p>や、報告・連絡・相談と指導・助言・調整が機能的に働くよう I C T 機器を積極的に活用した。質の高い効率的な組織運営の実現を目指し、適切な役割分担と連携のある組織づくりを推進した。今後は、業務効率化に向けた保護者への連絡ツールの新たな導入を検討し、配付文書を印刷物からメールによる配信へ転換していく。また、生成 A I の活用も含めた I C T 機器の活用、仕事内容等の精選・合理化に関する職員の意見を積極的に取り入れ、改革を推進していきたい。</p>					
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科	国語	中高6年間を見通した指導計画及び評価規準を定め、授業のPDCAサイクルを活性化する。学力推移調査においてGTZのAランク到達率70%を目指す。	日常生活における自学自習の習慣を徹底させ、小テスト等を通して基礎学力の定着を図る。中高6年間を見据えた授業のPDCAサイクルを回し、課題に意欲的に取り組ませる。 ②		
		読解力・表現力の身に付く授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワークやディベートを授業の中に取り入れ、積極的に対話や質問をさせる。生徒が作成したスライド等をもとに意見発表をし、理解の共有を深めさせる。②③ 年間計画に基づき、重点項目を明確にして継続的に授業を実践し、社会生活に対応できる読解力と論理的思考力の育成を図る。各種コンクールに投稿すべく、授業で俳句や短歌などの韻文創作活動や主張文などの文章作成に取り組み、表現力の伸長を図る。③		
		ICTスキルの定着を推進する。	分かったことや調べたことをまとめ、資料を作成してプレゼンテーションできるようになるまで、紙によるレポートなどの従来の指導にロイノートや google スライドの手法をベストミックスさせ、技術の習得とICTの効果的な活用を図る。②③ 新聞や文献、ネット資料など、参考資料を検索し、情報の取捨選択ができるよう、情報リテラシーについての理解を深める。その際、授業との関連を図る。②③		
		読書習慣の定着を促進する。	「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」を活用するなど、読書環境を充実させる。図書館と連携し、生徒相互の交流を生かして読書指導を行うように努める。② ビブリオバトルや読書感想文コンクール、さらにはPOPコンテストなど、読書に関するイベントへの参加や応募を積極的に促し、生徒の読書習慣の量的・質的向上を目指す授業を行う。①②③		

別紙様式 2 (中)

社会	協働的・探究的な学びの充実を図る。	生徒が予想を立て、見直しをもって行う問題解決的な学習課題の工夫を図る。 ①②③		
		社会的事象の意味や意義を解釈し、表現する場を設定し、学び合いのできる学習を行う。 ①②③④		
	社会的な思考力、判断力、表現力の育成を図る。	ICT 機器等を積極的に活用し、生徒の学習意欲を喚起する学習課題の工夫を図る。 ①②③④		
		複数の資料から必要な情報を集めて読み取り、要点を簡潔に文章で表す言語活動を取り入れた学習を行う。 ①②③④		
	中高 6 年間を見通した指導計画を作成する。	小学校社会科及び生徒の実態を踏まえた指導計画の作成と中高一貫教育に対応したカリキュラムの検討を進める。③		
		授業担当者による相互授業見学及び研究協議等を実施する。①②③④		
数学	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るよう努める。	年間学習計画・単元学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。定期的に数学会にて計画を見直す。③④		
		スタディサプリを用いた小テストや単元ごとの章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へのフォローを行う。②③		
		基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向け、休み時間・放課後等に生徒から質問を受ける体制を整える。②⑤		
	思考力、判断力、表現力の育成を図る工夫をする。	生徒の実態に合わせて、生徒の学ぶ意欲を引き出せるよう、何に着目するのかを明確にして、生徒間などで比較検討することができる機会を設定する。①②③④		
		考えた方法以外にも解法があるか検討する機会を設定する。②④		
	家庭学習習慣の定着に努める。 自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	定期的に課題を出し、家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、学習の定着が不十分な生徒への補充指導や面談を行う。②③		
		生徒の振り返りの記述や授業評価を基に、指導内容を点検し、次の授業の指導改善に活かす。①		
		学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導方法を工夫改善する。特に、グループワークなど対話的な学びを充実させ、主体的に取り組める授業の展開を工夫する。 ①②		
学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導方法を研究する。特に、ICT を効果的に活用した授業について研究する。 ①②				
理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業	授業の導入の工夫や、時事ニュースや最先端の研究テーマを取り上げて、興味関心を喚起する。 ②		

別紙様式 2 (中)

		を提供する。	教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に I C T を効果的に活用した授業を展開する。 ②③		
			授業後に振り返りを実施し、生徒自身のフィードバックに活用するとともに、授業改善にも取り組む。 ①②		
		自然現象に関する問題提起をし、科学的な思考力や表現力、発想力を身に付けられるようにする。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを取り入れて、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを行う。 ②⑥		
			単元ごとに関連した実験観察を実施し、思考力を養う。 ②		
		進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	高校籍教員による専門性の高い補足説明を入れることで理解を深める。 ②③⑤		
			理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。 ①		
保健 体育		生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	習熟度による個別対応、学習内容の深化のために適宜質問応答の時間を設ける。 ②③④		
			オンライン環境を整備し、個別指導の充実を目指す。 ③		
		保健の教科書・ノートにそった授業を展開する。また、授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	単元目標にそった授業計画を立案する。 ②		
			最新のデータや資料をもとに、学習カードや I C T 機器を活用してペアワークやグループ学習など、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施する。 ①②		
		現代社会の中で心身共に健康に生きるための知識の習得に努める。	生涯を通じた健康作りの基礎を身に付けるようにする。 ①②		
			外部人材と連携を図った、体験的な保健の授業を実施する。 ②④		
様々な手立てを講じ、共生の視点を持ちながら、確実に基礎体力の向上を図る。		年度を通じて、各学期に各学年とも体づくり運動の時間を設ける。 ②			
		ゲームの進め方を工夫し、生徒一人一人の運動量を確保する。 運動が苦手な生徒でも積極的に取り組めるようなルールを設定する。 ①②⑥			
種目ごとの技術の向上を図り、スポーツの楽しさを味わい、生涯にわたって運動する習慣を定着させる。		種目の経験者をグループ内に配置し、スモールティーチャーを設け、技術の向上を図る。 ③⑨			
		生徒一人一人の技能習得のバランスを考えたグループを作り配慮し、全員が楽しめるゲームができるようにする。 ②⑨⑩			

別紙様式2 (中)

		スポーツを通してルールを守る習慣を定着させ、主体的な活動を促す。	単元後半のゲームでは、互いに審判を経験することで、ルールを覚えたり、各競技の楽しさを知ったりすることができるようにする。 ②⑪		
技術 家庭	学習意欲を高める授業を展開する		実験・実習・体験学習等を多く取り入れた授業を展開する。②		
			異文化や日本の伝統文化についての教材を取り入れ、興味関心を喚起する。 ②		
		思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開し、主体的態度を育成する。	三観点を意識したワークシートを作成し、思考力・判断力・表現力を把握する。 ②		
		環境整備に努める。	実験・実習の充実を図る。 ②③		
英語	指導力の向上を図る。		学習環境を整え、安全な実験・実習を行う。 ②		
			授業を相互に参観し、よりよい授業を目指す。ICT機器を効果的に活用する。①②③④		
			他校視察、研修会等への参加回数を増やし指導法の研修を行う。 ①②		
			生徒が授業や家庭学習に主体的に取り組めるよう、学習アドバイスを充実させるなど、適切な支援を提供する。	音声指導やフォニックスの活用、またペア・グループワークを通し、基本的なコミュニケーション能力が定着するよう指導を工夫する。 ①②	
特別活動	社会参画する力を育てる。		スモール・トークやグループワークなどの口頭発表や英作文による自己表現の機会を多く設け、生徒が主体的に活動できる授業を実践する。 ①②		
			復習の場を適宜授業内で設け、習得状況に応じた指導改善を図る。 ①②④		
			課題や自学ノートを随時点検し、家庭学習の状況や理解度を確認する。 ①②		
			高校との連携をさらに深める。	中高で連携しながら相互授業参観や研修の機会を設け、教員間での情報共有に努める。また、中学の教員が高校の授業に、高校の教員が中学の授業に参加することで、相互理解を一層深める。 ①②⑬	
1 学年	基本的な生活習慣の確立を図る。		Can-Do リストをよりよいものにし、6年間を見通した効果的な指導体制づくりを進めるため、教科会等で議論を深める。 ①②④⑬		
			学級活動並びに生徒会活動等における自発的、自治的な活動の充実、活性化を図る。⑩⑪⑫		
		自己有用感や自己肯定感を高める。	各活動におけるねらいを明確にし、生徒の主体的な活動を支援する。⑩⑪⑫		
			活動の過程における生徒の努力や意欲を教師が積極的に見取り、適時フィードバックを行う。 ⑬		
			早めに登校し、始業までの時間を朝課外の学習や読書をするすることで、朝から落ち着いて過ごせる環境を醸成する。②⑤		
			学級活動における話し合い活動の充実を図り、意図的に安全教育を推進していく。⑥⑨⑪		

別紙様式2 (中)

		挨拶の励行や給食支援、清掃支援を適切に行うことで、教室に安心・安全な環境を確保する。⑤⑥		
	コミュニケーション能力の育成を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事等、様々な体験を通じて、他者に対する言葉や行動の気づきの質を高める指導の充実を図る。⑩⑪⑫⑬ 生徒の思いと教員の願いをベストミックスさせ、生徒一人ひとりに役割を与えながら、学校行事を企画・実行していく。⑧⑨⑮⑯		
	いじめや不登校生徒への早期対応をしていく。	いじめ等問題行動の未然防止のため、学級活動を柱とし、生徒が互いに認め合い、励まし合う集団作りの推進に努める。⑥⑧⑨⑪⑫ 小さな変化やサインを見逃さない日常的・定期的な情報収集による実態把握を行い、一人一人の悩みや不安に寄り添う教育相談体制を構築する。⑤⑥⑪ 道徳教育を推進しつつ、定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める②⑤⑦		
	学習習慣の確立と基礎学力の定着を徹底する。	授業に集中して取り組ませるとともに、予習・授業・復習を柱とした学習方法とその習慣を身に付ける。①②④ 未来手帳の使い方を見直させ、自己管理を行うことを指導し、自主学習の習慣化を図る取組みを推進する。②⑥		
2学年	学習習慣の改善と基礎学力の向上を図る。	デジタルとアナログのよさを活かし、生徒一人一人の学習状況に応じた個別最適な学びを支援する。①②③④ 夢未来手帳や自学ノートを活用し、朝学習・家庭学習の見える化を図り、互いのよい所を認め合いながら協働的な学びを実現させる。①②③④		
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	他者を思いやる清掃の徹底、さらには時間の管理に対する意識を高め、学習環境をデザインする教育を励行する。⑤⑥⑧⑨⑪ 校内・校外を問わず、元気な挨拶を励行し、教職員も一体となり指導実践にあたる。⑥⑦		
	リーダーシップの育成を図る。	部活動・委員会活動・学校行事等に主体的に参加させ、リーダーシップの育成を図れるようにする。②⑤⑥⑨⑩⑫ ICT 機器を効果的に活用した個別最適化を推進し、国内語学研修をはじめとする多様な活動を通して、探究に必要な手段を身につけ、コミュニケーション力の基礎を築く。⑤⑩⑫		
	いじめや不登校生徒への早期対応を継続する。	道徳教育や学級活動を通して、自分の気持ちを調整し、折り合いを付けながら他者を尊重する態度を養う。⑥⑧⑪ 欠席生徒の状況を学年で共有し、支援が必要な場合には学年会議やケース会議を開いて、管理職・保健室・カウンセラー・保護者と早期に連携し、生徒の困難に応じた個別最適な支援策を検討し、実際の支援につなげる。②⑧⑯⑰		
3学年	高校への接続に向け	高校への進学(接続)を意識させ、授業に集中して取り組ませるとともに、外部模試や授		

別紙様式2 (中)

	て、学習習慣の改善と学力向上を図る。	業などで中学内容の復習の機会を設け、基礎基本の定着を目指す。また英検などの資格取得にチャレンジさせる。①②③		
		未来手帳の使い方を確立させ、自己管理を行うことを指導し、自主学習の習慣化を図る取組みを推進する。②⑥		
	基本的な生活習慣の確立支援を継続する。	挨拶の積極的な励行や給食支援、清掃支援を適切に行うことで、教室に安心・安全な環境を確保する。⑤⑥		
		早めに登校し、始業までの時間に朝課外の学習や読書を行うことで、高校進学に向けた学習習慣を確立する。②⑤		
	リーダーシップの向上を図る。	部活動・委員会活動・学校行事等に主体的に参加させ、リーダーシップの向上を図れるよう支援する。②⑤⑥⑨⑩⑫		
		ICT 機器を効果的に活用した個別最適化を推進し、修学旅行をはじめとする様々な活動を通して、探究に必要な手段を習得し、コミュニケーション力の向上を図る。⑤⑩⑫		
	いじめや不登校生徒への支援・対応を継続する。	道徳教育を伸長し、定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消を継続する。②⑤⑦		
		いじめや不登校等の未然防止に努めるとともに、支援を要する生徒に対し、管理職・保健室・カウンセラー・保護者と連携を密にし、困難を抱える生徒に最適な支援を行う。⑤⑥⑧⑨		

※ 評価規準：A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する